Victory

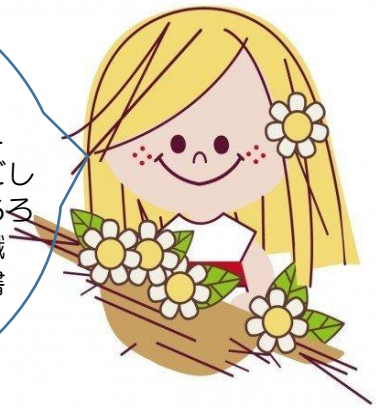
宮崎県立宮崎西高等学校・附属中学校図書館
NO.１　令和２年５月

卯月から皐月へ、そしてバトンは渡されました。

　新学期が始まり、４週間が過ぎました。
本来であればいよいよ本格的に学校生活が始まる頃ですが、今私たちは予測不能な状況の中で日々過ごしています。この現状をどのように受け止め、自らの次なるアクションにどうつなげるかを考える機会をもらっているのかもしれません。実のところ、出来ることならば誰もが避けたいと思っているこの状況ですが…。まあ、だからこそ「考える」「自分事として考えてみる」時間を意識して持ちたいものです。自分の身近なところ（ミクロ）から、少しずつ視野を広げて…私→家族→学校→地域→県→国→世界→地球→宇宙（マクロ）というような具合に。
　ええっ！それって大袈裟じゃない？
いえいえそんなことはありません。無限大に世界を見ることは無限大に自分を見つめることにつながるのです。

こんにちは。
学校司書の小原央子（おばらちかこ）です。

　宮崎商業高校から来ました。小学校の図書館を経て、高校図書館に勤務するようになり４年目を迎えます。４月は小学校時代に共に過ごしたみなさんとの再会もあり、図書館が本はもちろんのこと人との出会いの場であることを再認識しました。みなさん一人ひとりに寄り添う図書館でありたいと日々探究中です。
　どうぞよろしくお願いします。



棚から一冊
「科学と哲学の融合」

「幼年期の終わり」アーサー・Ｃ・クラーク著（光文社）

　クラークとの出会いは、「人」でした。前任校の先生との本にまつわる会話がきっかけでした。クラークといえば、「2001 年　宇宙の旅」の映画化はあまりにも有名でしょう。名作の名をほしいままにしています。（ぜひ、観てください）

　さて、紹介する本第一号は「幼年期の終わり」です。クラーク作品３作目です。クラークは、探究することが大好きな理科少年だったそうですが、同時に物語ることも好きだったことがきっかけとなり、自ら興味関心のある分野「科学：宇宙」におけるサイエンスフィクション（SF）を書くようになりました。超常現象、UMA などにも興味を持っていた彼の作品には、一見非科学的な要素も盛り込まれているのですが、実はそれが現代の科学のみならず社会の在り方にも通じているのですから面白い。
　いささか抽象的な紹介になりましたが、文学に興味を持てない人、科学に興味を持てない人どちらにもおすすめです。専門用語もクラークにかかるととても身近に感じます。
　さて、タイトルの「幼年期」が何をさすのかは、読んでみてのお楽しみ。

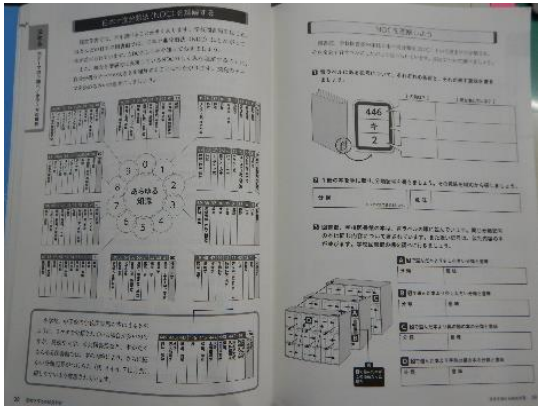
新入生図書館
オリエンテーション終了

４月に高校１年生と中学１年生を対象とした図書館オリエンテーションを実施しました。

これまで小中学校でも慣れ親しんできた学校図書館ですが、改めて良き情報の使い手となる再認識の場として、さらには自らが情報生産者となるための第一歩としての高校図書館の利用者であってほしいと考えます。今回行った内容は以下の通り。

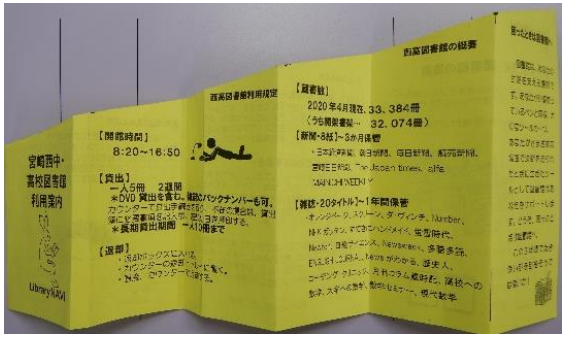
① Library　NAVI を使って本校図書館の機能（利用規定含む）を知る。
② ワークシート（「思考を深める探究学習」桑田てるみ著・全国 SLA から引用）を使って、自らの興味関心から図書館の法則である日本十進分類法（NDC）に触れ、理解する。
　　→テーマ設定をする際の足掛かりにする。
③ ワークシートをもとに関連資料を選び、その本の分類ラベルを確認し、数字の表す意味とその著者名を記入する。
　　→分類ラベルの意味を理解する。
④ 本を探す際に、目的の本の周辺知識（情報）を目に入れる。
　　→新たな興味・関心の扉を開くきっかけ作り。

（参考資料）
「思考を深める探究学習」
桑田てるみ著
（全国学区図書館協議会）
引用ページ: p38～41

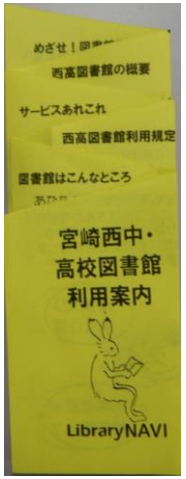


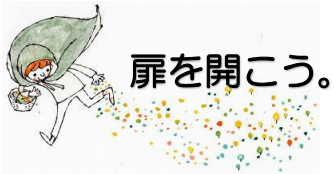
今回のオリエンテーションでは上記の活動の前に行ったのが「STEAM BOOK」にワークシート、読書記録、LibraryNAVI（蛇腹におる）を貼る作業でした。四苦八苦しながら作業をする姿が印象的でした。その後の分類を意識しながら書架をめぐる様子を通して、目的の資料に出合えることも大切ですが、周辺情報との出合いこそ大切にしてほしいと思います。

自らの力で情報収集することがいちばんですが、その能力を培うために図書館の「人」を利用する（レファレンス）ことも覚えておいてもらいたい一つです。



↑
LibraryNAVI　→





扉を開こう。新たな世界が君を待っている。

人が成長するように、図書館は「成長する有機体」であるといったのはインドの数学者ランガナタンです。彼は、ひょんなことから図書館学長となった変わり種！？なのですが、数学的視点からも図書館を深く見つめ、その重要性を明確に捉えた図書館界の第一人者です。その彼をしてこう言わしめたことを司書として現場で日々感じています。

ランガナタンの図書館五法則の一つです。残りの四つを記します。
「図書は利用するためのものである。」
「いずれの人にもすべて、その人の本を。」
「いずれの本にもすべて。その読者を。」
「読者の時間を節約せよ。」

ランガナタンのこの五法則に少しでも近づけるような図書館でありたいと思います。